

授業科目名	英語 コミュニケーション I	教員名	村端 佳子	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	GAI102	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
単位数	1単位				幼保コース	必修
科目						
各科目に含める 必要事項						
科目						
系列						
一般目標	<p>英語による基本的なコミュニケーションスキルを身に付けることを目標とする。</p> <p>(1)とくに英語を「聞く」「話す」ことに重点を置くが、より正確な英語を身に付けるために「読む」「書く」活動も取り入れる。</p> <p>(2)英語を聞いて理解し、聞いた事柄に対して、流暢さと正確さの両面で「聞いてわかる」英語で返答できるようになる。</p> <p>(3)英語を読んできちんと理解したり、正確な英語を書いたりすることができるようになる。</p> <p>(4)教育学部における英語コミュニケーションの授業ということを考慮して、内容は学校で行われるコミュニケーションを想定し、そのために必要な英単語、英語表現を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>自信を持って英語を使うことに慣れ、身の回りの日常的な出来事だけでなく、教員を目指す学生として学校生活における専門的な表現にも親しみ、使えるようになること。さらに、児童・生徒に教える小学校英語は基本的な英語ではあるが、児童・生徒の前で英語を使うのであるから、模範となるような英語を使えるようになること。</p>					
授業の概要	<p>授業はテキストに沿って進めて行く。Listening, reading, writingのセクションがあるので、英語を聞いて理解し、繰り返して言う練習をし、書いてあることを正確に読み取り、出て来た表現を使って英文を組み立てる、といった基本的な英語の学習を繰り返しながらすすめていく。</p> <p>教科書の内容は一貫して学校という特定の場所が想定されているため、学校・教科・授業といった事柄に関連する英語表現が多いが、同時に日常生活や身の回りの事柄、子どもの遊びや日本文化に関連した事柄を表す英語表現も学ぶことができるようになっていく。当然、これらのことを正確に伝えるために、現在・過去・現在完了などの時制や、進行形・受動態・比較級・最上級、前置詞・副詞等の使い方、も意識する必要がある。それらの文法事項もおろそかにすることなく確認しながら、コミュニケーションスキルを身につけて行く。</p> <p>教員を目指す学部であるため、将来は児童・生徒の前に立って模範となるような英語を使うということを常に念頭に置き、自信を持って英語が使えるようになることを目指す。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「7. 基礎的な英会話及び音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p> <p>なお、クラスサイズは20名程度とする。</p>					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、使用するテキスト、予習の仕方、復習の仕方、課題の提出、評価について）、クラスルーム・イングリッシュ、自己紹介。</p> <p>第2回：Unit 1: ALT's first visit to Minami Elementary School（初めてあう時の挨拶の仕方、学校の大まかな様子を伝える、頻度や時間の言い方、日本の学校の役職名）</p> <p>第3回：Unit 2: Getting to know each other（簡単な自己紹介、自分の興味関心を伝える表現、遊具の名前、学年の言い方）</p> <p>第4回：Unit 3: School lunch（日程や待ち合わせに使われる表現、学校給食の説明、日本の食べ物の名前）</p> <p>第5回：Unit 4: Play time（学校での休み時間の過ごし方、子どもの遊びを英語で）</p>					

	<p>第6回: Unit 5: The first English class (授業の始め方、授業で指示するときの簡単な英語、授業の流れを説明するための英語、ほめ言葉)</p> <p>第7回: Unit 6: Teaching numbers 1 (英語の数に慣れるには、数を使ったライムや歌)</p> <p>第8回: Unit 8: Reflection (授業で使う振り返りカードについて、振り返りを英語で行うための表現)</p> <p>第9回: Unit 9: Activities at a kindergarten (幼稚園ではどのような英語活動が可能か、体の部位)</p> <p>第10回: Unit 10: Growing plants and observing the butterfly lifecycle (他教科に関連する英語表現、朝顔の栽培やチョウチョの成長に関する英語表現)</p> <p>第11回: Unit 11: Making <i>onigiri</i> and curry (家庭科での調理実習に関する英語表現、おにぎりやカレーの作り方に関する英語表現)</p> <p>第12回: Unit 12: Making a town map (町の地図作成作業に関わる英語表現、建物や店の名前)</p> <p>第13回: Unit 13: Introducing Japanese culture (どのような日本文化を伝えるのか、折り紙の紹介や説明に関する英語表現)</p> <p>第14回: Unit 14: Evacuation drills (避難訓練に関わる英語表現)</p> <p>第15回: Unit 15: Graduation (日本の小学校の卒業式に関する英語表現、感謝を表す英語)</p> <p>期末試験</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>評価: 次の観点から総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の準備 (予習・課題) …………… 20% (提出物は評価して返却) ・授業中の活動 (グループ活動・課題発表) … 20% (出席して活動していればプラス・非活動的であればマイナスにすることもあり得る) ・授業内容の理解 (復習テスト・課題) …………… 30% (提出物は期日を守る。遅れたら受け取らない。特別な理由があると認めた場合は評価点数を80% [A→B, B→Cなど] として受け取る) ・期末テスト…………… 30% (60%を取る) <p>レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習について</p>	<p>授業外で、週に2時間程度の時間を使って予習・復習をすること。付属のCDがあるので、授業外でもそれを何度も聞いて活用することがのぞましい。</p>
<p>テキスト</p>	<p>Say It Aloud!: For Better Listening & Speaking Skills.</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>必要に応じて等を配布する。</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>クラス分けの基準は、習熟度による。</p> <p>一コマの授業で一ユニットを終えるので、予習は必須である。わからない単語は辞書で調べ、調べてもわからない英語表現は必ず質問をして、ひとつひとつ確認しながら授業に望むこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月・水曜日 13:00~14:30</p>